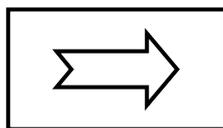


# 電子ジャーナル ってなに？

## 入門編



印刷雑誌

から

電子雑誌



2005.5.9

産業医科大学図書館

# はじめに

「雑誌」といえば、図書館の到着雑誌コーナーに並べている冊子体を思い浮かべるとと思います。しかし、大学においては「電子ジャーナル」と呼ばれる電子的形態が急速に増えつつあります。各種の文献検索のツールを利用して論文を探した後、その本文を入手するのに、冊子体のほかにも電子ジャーナルが利用できるわけです。

また、文献検索ツールでの検索結果、その場で電子ジャーナルを見ることができるシステムもあります。

## 目 次

1 . 電子ジャーナル関連用語集	3
2 . 電子ジャーナルとは	4
3 . 電子ジャーナルの特徴	
3-1 メリット	5
3-2 デメリット	5
4 . 各種電子ジャーナルサービス	
4-1 出版社系電子ジャーナルサービス	5
4-2 複数出版社の電子ジャーナル統合的に提供するサービス	5
4-3 個別契約の電子ジャーナル	6
5 . 電子ジャーナル相互リンク	6
6 . 電子ジャーナルの利用にあたっての注意	6
7 . J-STAGE(国内の学・協会無料電子ジャーナル)	7
8 . UMIN 医療・生物学系電子図書館 (UMIN・ELBIS)	8

## 1. 電子ジャーナル関連用語集

### Acrobat(アクロバット)

米国の Adobe(アドビ)社が開発したソフトウェアの名称。Acrobat を使っ PDF(Portable Document Format)と呼ばれる形式に変換すると作者の意図に近い内容で表現できる。インターネット上で配布される文書形式として注目されており電子ジャーナルの本文を作成する際に使用する出版社が増えている。(Academic Press、ACS 等)PDF 形式の文書を読む際には同じく Adobe 社から無料で配布されている Acrobat Reader を使用する必要がある。

### Consortium(コンソーシアム)

一般的には組合とか共同体という意味であるが、複数の図書館が共同して電子情報(特に電子ジャーナル)の購入、利用契約を出版元やデータベースの業者と結んで運用しているもの。

### HTML(Hyper Text Markup Language)

ホームページを作成するために使用する言語の一種。タグと呼ばれるページ表記のための属性を定義する書式によって記述される WWW サーバーのなかの各種の情報は全てこの HTML によって記述されており、アクセスした際に使用しているブラウザ が内容を解釈して画面上に文書や画像等を表示する。

### HTTP(Hyper Text Transfer Protocol)

個々のコンピュータと WWW サーバーが情報のやり取りをする際に使用する Protocol の一つ。

### IP(Information Provider)

データベースに蓄積された各種の情報をネットワーク上で提供する企業や団体のことを指す。

### IP Address(Internet Protocol Address)

インターネット上でデータの転送を行う際には IP と呼ぶプロトコルを使うが、その際にインターネットに接続されている全てのコンピュータを特定するために付与する固有のアドレスのことを指す。例えば、160.198.13.40 のような数字の組み合わせを用いる。

### Link(リンク)

www の大きな特色の一つでホームページ上から他の情報(ホームページ)へ自由に行き来できるようにした機能のことを指す。

### **Mirror Server(ミラーサーバー)**

あるサーバーが保有しているデータをそのままコピーして持っているサーバーの事を指す。アクセスの多いサーバーのミラーサーバーを設けることによって負荷を減らすことができる。

### **Site License(サイトライセンス)**

ソフトウェアや電子ジャーナルの購入契約方法の一つで企業や学校(サイト)単位でコンピュータの台数や使用する人数に応じて一括して契約を結ぶ。電子ジャーナルの購読に際しては特定の端末やユーザーでなくサイト(キャンパスや事業所)単位でサイトライセンスを結ぶのが一般的である。契約したサイト内の端末からは原則として自由に電子ジャーナルにアクセスが可能となる。

### **URL(Uniform Resource Locator)**

インターネット上でどのコンピュータ(ネットワーク)にどのような方法(プロトコル)やアプリケーションでアクセスするのかを指定するための表記方法。

図書館のホームページにアクセスする際にURLとして以下のように入力する。

<http://www.lib.uoeh-u.ac.jp/>

### **WWW(World Wide Web)(ワールドワイドウェブ)**

インターネット上での情報検索システムおよびサーバーシステムの一つの名称。(世界中に張り巡らされた蜘蛛の巣の意味)インターネット上では多くの情報が存在するが、近年のインターネットブームの火付け役となったのがこのシステムである。

いわゆるホームページで提供される各種の情報はこのWWWのシステム上で提供されているものである。

## **2 . 電子ジャーナルとは？**

電子ジャーナルとは、文字通り学術雑誌を電子化し、コンピュータのディスプレイで見られるようにしたものです。図書館に出向かなくても、研究室などのパソコンからインターネットを通じて出版社のホームページに接続し、いながらにして雑誌の記事を読むことができます。ネットワークを介してオンラインで利用するところから、オンラインジャーナルと呼ばれることもあります。それ以外にも「Electronic Journal」「E-Journal」「電子雑誌」と呼ばれることもあります。2002年においては、既に外国雑誌の10,000誌以上が電子ジャーナル化されており、冊子体の雑誌から電子ジャーナルのみを出版をしている出版社もあります。

### 3. 電子ジャーナルの特徴

#### 3-1 メリット

電子媒体の雑誌には紙媒体の雑誌に比べて、文献情報へのアクセスが格段に向上するという優れた機能があります。

学内のパソコンから24時間いながらにして雑誌論文を読むことができます。

冊子体より2週間から1ヶ月も早く最新論文を読むことができます。

同時に複数人が利用できます。(1ユーザー限定のものも有)

未着・欠号がありません。

全文検索などの多様な検索機能を備えています。

マルチメディア情報の添付機能を備えています。

アラート機能(登録しておいたタイトルの最新号の目次を、電子メールで自動的に届けてくれる。)を利用できます。

#### 3-2 デメリット

現状での電子ジャーナルのデメリットをあげてみます。

出版社やネットワーク等に事故があった場合のアクセスの保証がありません。

インターネットにアクセスする環境、設備が必要です。

正式に利用を申し込んだ機関や個人だけが利用できるように、IPアドレスやパスワードを発行し、利用できる端末や人が制限されます。

時間帯により、アクセスに時間がかかります。

契約を中止した場合は、それまで利用していたバックファイルへのアクセスができなくなります。

ただし、出版社側は、契約年まで見られるようになりつつあります。

また、国立大学図書館間では、バックファイルを保存するアーカイブズ(電子保存図書館)の設置構想などが検討されています。

### 4. 各種電子ジャーナルサービス

#### 4-1 出版社系電子ジャーナルサービス

学術雑誌出版社による電子ジャーナルサービスです。個人の情報の登録やアラートなど、様々なサービスが充実しています。

・ Science Direct (SD)、Springer Link、Blackwell Synergy など

#### 4-2 複数出版社の電子ジャーナルを統合的に提供するサービス

図書館では、アグリゲータ系と呼ばれ、複数出版社の電子ジャーナルを統合し、分野別・タイトル順に提供されています。文献データベース(MEDLINE等)と統合され、データベースの検索結果からフルテキストを表示できます。

・ EBSCOhost、ProQuest、Ingenta、JSTOR など

#### 4-3 個別契約の電子ジャーナル

上記のようなサービスに属さず、個々のタイトルごとあるいは学会ごとに利用契約を結び閲覧できる電子ジャーナルです。

“ Nature ” “ Science ” などのコアジャーナルに多いようです。

冊子体購読者には無料でアクセス権を持たせてくれる電子ジャーナルもありますが、この場合は、出版元の方針により突然アクセス不可になることもあり、継続的な利用は保障されません。

### 5 . 電子ジャーナル相互リンク ( CrossRef )

世界の主要学術出版社や学協会が、CrossRef 作成で協力しています。これは、参考文献リストからオンライン提供コンテンツへリンクするサービスです。

マウスをクリックするだけで、電子ジャーナルにある論文の参考文献から他社の電子ジャーナルへリンクし、その場でフルテキストや抄録を見ることができます。

### 6 . 電子ジャーナルの利用にあたっての注意

電子ジャーナルを利用する場合は、下記の項目に留意する必要があります。

遵 守 事 項	
1	電子ジャーナルは、個人の調査・研究を目的とする場合に限り、閲覧、ダウンロード、プリントアウトができますが、個人の利用範囲を超えた大量のデータのダウンロード、プリントアウトは認められていません。
2	プログラム等を利用したシステムティック(自動的)なダウンロードは厳禁されています。出版社は常に監視しており、本学全体に対するアクセス停止の措置をとられる恐れもあります。
3	ダウンロードデータまたはプリントアウトした記事を、他者に複製配布、送信、売買することは一切禁止されています。
4	ダウンロードした記事を、著作権者の同意なしに他のいかなる形式や媒体に変換すること及び内容を改変して利用することは著作権、知的所有権を侵害する行為として、一切禁止されています。 なお、著作権等でのトラブル、損害賠償問題等は使用者の責任と費用で処理するものといたします。



## 8 . UMIN 医療・生物学系電子図書館 (UMIN・ELBIS)

UMIN・ELBISは、UMINがインターネットで無料公開している医学・歯学・薬学・看護学など、医療系の学会の演題抄録データベースで、学会集会の演題抄録や学会誌論文などを検索できます。

### ◆ 統合検索(すべての演題抄録・論文) -> 検索上の注意点

UMIN収録のすべての学会の演題抄録・学会誌論文等を全件まとめて検索できます。

クリック

検索を行う [<検索の履歴>](#) 発行・開催年:  ~ 年  
学会集会名・学術雑誌名:  巻[論文のみ]:  号[論文のみ]:   
筆頭著者名:  共著者名:  著者所属機関:   
題名:  抄録本文  **老人介護**  論文本文[論文のみ]:

A01794-00004-10006 [クリック](#)  
伊達祐美子(柏市立老人保健施設 はみんぐ)  
[痴呆老人の在宅復帰への道](#)  
全国老人保健施設協会 全国介護老人保健施設 福岡大会 2002,  
A01794-00004-10476  
岡田光子(介護老人保健施設 アーユス)  
[お年寄りの心の声が聞こえていますか？](#)  
全国老人保健施設協会 全国介護老人保健施設 福岡大会 2002,

全国老人保健施設協会 全国介護老人保健施設 福岡大会

#### 痴呆老人の在宅復帰への道

○伊達祐美子<sup>1</sup>,井上幸<sup>1</sup>,山影茂子<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>柏市立老人保健施設 はみんぐ)

#### 1. 研究目的

介護保険が導入されて2年。社会的に老人介護がクローズアップされ、また老人介護施設やサービスにより、身近にサービスを受けやすくなった。施設等を利用することで家族の介護負担が軽減し、在宅復帰を希望するケースが少ない現状にある。今回、在宅復帰への道を探る目的で痴呆性アンケート調査を実施した。

#### 2. 対象及び方法

対象:平成14年4月1日から4月30日に痴呆棟入所中の50例。男性8例、女性42例、平均年齢78.5歳。認知症30例、脳血管性痴呆10例、その他痴呆10例。寝たがり度と痴呆自立度は表1に示す。

#### 3. 結果及び考察

対象者50例に調査票を配布し、回収数40例回収率80%であった。

##### 図1 在宅復帰の希望

退所後の在宅復帰を希望するかに対して希望する6例、希望しない34例68%であった。

##### 図2 入所前の家族構成(希望しない)

常時家族がいる13例、日中一人10例、高齢者世帯7例、独居4例であった。痴呆性老人が家族に88%と高率であった。

全文